別紙様式3

実施体制及び国内外のネットワーク

提案主体名	
提案プロジェクト名	西条農業革新都市

① 実施体制（構成主体と役割分担）

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

私どもはあくまでも「西条農業革新都市」作りのためには、持てる人脈からの知識を「アイデア募集」に際して応募いたしました。提案差し上げた内容につきましては今後設けられると思われます「実施協議会」等に対し協力差し上げたいと考えています。「環境未来都市」の決定内容に対して余りにも現実に「消費者」から求められている内容と乖離しています。特に、「環境未来都市」構築には、循環型社会の構築「バイオマスタウン構想」が決定され、国の方針に沿った取り組みが先ず必要に感じました。「循環型社会の構築」「バイオマスタウン構想」の実施は「環境問題」の解決の基礎的な要素と考えます。 しかし、この分野に対しての「頭脳」「人材」の展開が遅れています。 私どもは、限られた人脈、少数の人数で積極的に研究と情報収集を行っており、具体的な事業提案も出来る状況ですので、求められれば技術の提案と供与を差し上げる所存です。

② 実施体制（プロジェクトマネジメントのための具体的な方法論）

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

私どもは、3月7日に経団連より公表された「環境未来都市構想」を拝見しました。。「西条農業革新都市」の具体的な内容はこれから検討され実行に移されると思います。その中で、現在の布陣で考えると科学と化学で占められる感が致します。「農業革新都市」のあり方として、ここ数年の中で政策課題として出されている内容の解決案がなかなか出てきません。研究テーマとして各県の農業技術センターも限られた予算の中では新し課題には取り組み出来難い状況も考えられます。大学、高等専門学校、農業高校等の教育の場も教科内容が従前通りですから先進的な取り組みは難しいと考えられます。農林水産省の進めたい「新農業200X」の期待するもの、有機農業JASの期待するもの、自然農法や自然生態系農法や酵素あるいは酵素に近い物を利用したらどうなる、その中で最新の「IT技術」「LED照明」の導入はどう変化するか、「新栽培ハウス」の変化を含め総力を結集する。「西条農業革新都市実施協議会」の設立がされ、実行プログラムの中で「消費者」の農業に期待することをモニタリングを行ない実行に移していただきたい。

③ 国内外のネットワーク（国内外のベストプラクティスの相互交流のための具体的な方法論）

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

日本のこれからの農業を考える「農業サミット」を開催して、実践現場の状況や「新農業200X」「農業に利用できる先端的な技術の導入」「現在の化学肥料、薬剤の化学製品の安心・安全の説明と効力」等の実例を掌握して今後の「西条農業革新都市」の目指す方向・方針を定められる事を提案するものです。 私には、東京木材研究所　壷（もたい）武治氏を頂点にした「自然生態系農法」「自然農法」等の有機農法の実践者やバイオテクノロジーの研究者、指導者、実践者等々との交流があります。ここから発信された日本向け海外での実践農法の情報も入ります。最新の例では、マレーシアに於ける「日本向けパパイア、マンゴ等の農場」の例・・・木製栽培ハウスの中でのLED照明による成長の促進、熟成の方法等「商品価値は糖度と色合いで決まる」と、付加価値の創造に取り組んでいます。有機バイオマスと加工機械を駆使できる日本で「農業の革命」の役割を果たし、「消費者」の支持を受ける近未来であって頂きたい。10年後は取り組み成果が得られ「農業で潤う西条市」「新しい雇用で人工が増加し未来を感ずる西条市」になって欲しいし、20年後は、「消費者の期待に応えられる作物の出荷ができてる益々発展する西条市」を期待します。

④ 国内外のネットワーク（国内外の都市・地域との連携を強化するための具体的な方法論）

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

東アジア経済圏の中にあって先進的な立場でなければならない日本の農業ですが、「新農業200X」が遅々として振興しないのは国の掲げる政策に添えないJAの役割が出来ていないということではないかと考える。JAの役割は日本の農業を常にリードしてゆく立場でなければ縮小して行くのが当然です。農業実践理論を習得し、「土壌診断」「土壌対策」「地域気候にあった利益の上がる作物の選定」「生産者の年齢能力に合った支援策」等の適正なアドバイスが出来る技術指導員でなければなりません。時代の変化に合った適正な対応力が取得できることが必要です。「農業革新都市」に相応しい、「産学公」連携のあり方と内容が「国内の幅広い交流」「国際的な幅広い先進地交流」の中で得られると思います。 日本の沈没してゆく国内農業より、海外で展開され「日本人の嗜好にあった食物」を作るためには、国内技術より先進している例がたくさんあります。スタンスは「国民のニーズに沿った農業」こそが、「農業革新都市」といえる。まず情報の収集・分析・試作・改善・試食評価・改善・本格生産・加工食品のニーズ・試食・本格生産・アンテナショップ等のプロセスに不足する情報と指導力を補充して行う為のネットワーク作りが必ず必要です。「常に目線は消費者であり、学説も理論も消費者の目線」でなければ成功しないことを十分認識すべきである。

※別紙様式3は、可能な範囲内でご提案願います。